■公共図書館での実践事例

マルチメディアDAISY図書制作への取り組み

栃木市大平図書館
石原　均

⑴ 聾学校生徒たちが挿画を考え描いてくれました

昔話のマルチメディアDAISYを！

公益財団法人伊藤忠記念財団は、「わいわい文庫」のコンテンツの多様化と、地元の子どもたちの関心を刺激することをねらいとして、その土地に伝わる「日本昔話」の収録を進めています。2018年６月下旬、伊藤忠記念財団から、栃木県の作品制作の取りまとめ協力依頼が栃木市大平図書館に舞い込んでまいりました。

その依頼内容はつぎのようなものです。

① 地元に伝わる昔話の選定、②文字データの提供、③挿絵の提供、④地元の言葉での音訳の提供、⑤上記、著作権に関する許諾の５つのプロセスです。

この企画に協力することで、栃木県に伝わる昔話がマルチメディアDAISY化され、全国の多くの公共図書館や特別支援学校に、同財団から寄贈されることになります。これにより、読み書きが苦手であり、また身体の不自由な方に本を読む楽しさを少しでも知ってもらえる一助となるなら、図書館で働く者にとってこのうえない喜びであり、お引き受けすることになりました。

①昔話の選定、②文字データと、④地元の言葉での音訳の提供は、現在、市内の図書館や学校で語り部として活躍されている方に快く引き受けていただけました。

制作プロセスは順調に進み、残るは③挿画の提供だけでした。時間的な制約はございましたが、社会的に意義のあることでもあり、挿画を描いてくれる学校はすぐに見つかると安易に考えておりました。マンガ甲子園で全国一になった市内の学校に伺いましたが、同校には多くの依頼が殺到しており、期日に間に合わせて制作することができないとの理由で、諦めざるを得ませんでした。その後、いくつかの学校を訪問いたしましたが、部活や行事などで忙しく、また、学習時間外で活動することへの問題点もあり、引き受けていただける学校探しが暗礁に乗り上げてしまいました。

聾学校との出会い

そんな中、「わいわい文庫活用術⑥」に掲載されていた鳥取大学附属特別支援学校の「マルチメディアDAISY絵本の制作に取り組んで」の寄稿文を読む機会があり、支援学校の子どもたちが制作していることが記載されておりました。これにより以前に伺ったことのある「栃木県立聾学校」の掲示版に貼ってあった絵を思い出し、早速、同校の教頭先生に折衝いたしました。

後日、教頭先生や美術担当教諭の方に「日本昔話の旅」制作の目的やスケジュールをご説明し、お引き受けいただくことになりました。帰り際、私とスタッフに校長先生が発したつぎの言葉が忘れられません。

「こんな素晴らしいご提案を当校生徒達にいただき、ありがとうございました。」

図書館に勤務している喜びと、当館が財団の企画に参加できた充実感を味わえた瞬間でした。

挿画の制作

制作は、美術担当教諭が指導にあたり進めていきました。全部で７名の生徒が携わり、読解力のある美術を選択した高等部の生徒が絵を制作しています。中学１年から中学３年の重複学級の生徒が、色を塗る作業を行いました。皆、文化活動で絵手紙を描き、色を塗ることが楽しいことを知っていたそうです。その経験から順調に挿画を制作し、完成させることができましたと先生から伺いました。

今回は依頼する側の都合で制作時間が短くなってしまいましたが、授業のカリキュラムが比較的自由に設定できる状況にあったことが幸いしました。反省点は、もう少し時間の余裕をもってお願いするべきでした。

成果

挿画完成の後に、制作のご指導をされた先生から、つぎのようなお言葉をいただきました。

「今回の制作活動に携われたことが、

子どもたちの学校生活の励みとなり、栃木県に伝わる新たな昔話を知ることができました。また、子どもたちはマルチメディアDAISY図書を知ることができたのではないでしょうか。何より、社会に少しでも貢献できたという充実感を味わえたことが意義深いと感じています。」

⑵ 鶴見大学・ＮＰＯ法人との連携

連携への経緯

栃木市大平図書館でマルチメディアDAISY資料の制作講習会を初めて開催いたしました。講習会の開催に至った経緯は、当館は「栃木県立栃木特別支援学校」に対し、伊藤忠記念財団から寄贈された「わいわい文庫」を貸出しております。

そんな中で、学校から“子どもたちに読んで欲しい本を図書館がマルチメディアDAISY化し、その資料を同校に貸し出してもらえないでしょうか”というものでした。図書館がマルチメディアDAISY資料を制作し提供できたら、障害者向けサービスの推進が大きく進むことになります。

しかし、制作するためには、制作技術を習得することに始まり、それに携わる専門の図書館スタッフも必要となります。ボランティアの方に協力してもらえないか聞いてみましたが、パートナーを見つけることができませんでした。

図書館で演奏会を開催したときの演奏者で、宇都宮大学勤務の方から、マルチメディアDAISYに詳しい同大学院准教授をご紹介いただきました。准教授を介し、DAISY制作を手がけているＮＰＯ法人理事長と鶴見大学図書館長をご紹介いただきました。鶴見大学図書館長からは、同大学のサークル「情報バリアフリー推進会」との共同を提案されました。制作技術を教えていただけるＮＰＯ代表、マルチメディアDAISY資料を図書館と共同で制作していただける大学サークルが、資料を提供したいという目的で三者が一つに繋がることになりました。

制作にいたる業務の分担計画

- 図書館は、特別支援学校が求める資料をテキストデータ化
- 図書館はテキストデータを鶴見大学にＮＥＴで送信
- 鶴見大学はテキストデータをマルチメディアDAISY化

◦鶴見大学はマルチメディアDAISYデータを図書館にＮＥＴで送信
◦図書館は受領したマルチメディアDAISYデータをCD－Ｒに焼き付け
◦図書館は、CD－Ｒに焼き付けたマルチメディアDAISY資料を貸出

今後の課題

制作の講師をしていただいたＮＰＯ法人「読み継ぐ書物のアクセシブル図書館」理事長からは、当館で使用しているスキャナーの解明度では、マルチメディアDAISY化ができるテキストデータ要件を満たしていないとの指摘がございました。スキャナーの買い替えが必要になります。

鶴見大学「情報バリアフリー推進会」がこれから制作に入りますので、データの検証作業等の詳細はこれからになります。

現状、出版社は資料データの提供に難色を示しており、マルチメディアDAISY資料の普及を図るためには、業界の壁を超えた全国レベルでの連携が必要なことを感じております。